

## V. 特記事項

### 1. 教育・保育現場の日常性を 22 週間にわたって学ぶ「長期フィールド実習」

「長期フィールド実習」は本学独自の取組であり、学生は学びの集大成として「卒業研究」または「長期フィールド実習」のいずれかを選択し、後者を選択する者は3年次から長期フィールド実習系専門ゼミナールに所属して事前指導を受け、4年次に年間22週間の実習を小学校・幼稚園・保育所などで行っている。長期フィールド実習のねらいは教育・保育現場の「日常性に馴染む」ことの中から自らの「実践知」を獲得していくことにある。通常の教育・保育実習では現場での経験時間が十二分とは言えない現状があるが、「長期フィールド実習」では継続的・日常的に教育や保育に携わることにより、時間の中で変化し成長してゆく児童や子どもの姿を見つめ、自主的に深く学ぶことが可能になる。学生は研究テーマをもって実習に臨み、事後には実習記録や長期フィールド実習研究報告書を提出している。

### 2. 「子ども教育フォーラム」を中心とする入学から卒業までの能動的学修の枠組み

学生の「自己発揮」や「自己挑戦」を可視化する能動的学修の機会として、「子ども教育フォーラム」を中心に、入学時から卒業時までの段階的な学修発表の場を設けている。入学直後のオリエンテーション合宿では、専門的なテーマの下でクラス単位の即興パフォーマンスの発表が求められ、主体性と協働性が試される。毎年6月には音楽授業の発表会である「丘の上の音楽会」が開催され、正装での独奏やクラス単位の合唱などが行われる。12月に開催される「子ども教育フォーラム」では、専門家を招いたシンポジウムその他、学生主体の各種授業成果発表、分科会形式の「ラウンドテーブル」による学生発表、専門ゼミナールの中間発表も開催され、主に3・4年次生が発表し、2年次生が実行委員となって支えている。これらの経験を経て4年間の学びを「卒業研究」等に結実させ、1月の「卒業研究発表会」にて学修成果発表を行い、指導教員及び副査の審査を受けており、様々な実習の機会も含めて、学生の主体性・協働性・創造性を刺激する枠組みとしている。

### 3. 卒業生の早期離職を防ぐ学科教員による「卒業生訪問」

平成29(2017)年3月の第1期生の卒業を機に、学科教員による「卒業生訪問」を開始し、平成30(2018)年度も第2期卒業生を対象に72件の職場訪問を実施して、面談とアンケート調査を行った。大学での学びが現在の仕事にどのように活かされているかの確認と、早期離職の防止が目的であり、卒業生を孤立させない取組でもある。卒業生からは「自己肯定感を持つことが4年間で一番大切だと感じたことです。」「職場に大学の先生がいらっしやって、今の自分を見てもらうことができ、改めて岡崎女子大の温かさを感じています。」などの声が寄せられた。